

鹿児島県離島振興協議会
令和元年度アイランドキャンパス事業
成果報告書

瀬戸内町久慈集落における廃校を利活用した拠点の整備計画の策定

福山市立大学都市経営学部根本研究室
令和元年2月

01 概要

西方地区の基幹集落である久慈集落では、少子高齢化を背景として廃校になった久慈小中学校跡を利活用して、地域コミュニティの創生を図る小さな拠点の整備や拠点を中心とした地域づくりが検討されている。そこで我々は、地区住民や行政などと協働して、廃校の利活用整備案を策定することを今年度の本事業の目的として取り組んだ。

また廃校の改修改装にあたるハード整備と両輪を為す運営体制などのソフトやこれの根拠となる久慈集落の未来のビジョンを考える住民ワークショップについても運営に協力し、これからの集落経営について共に検討したほか、住民ワークショップを利活用案の協議の機会として活用するとともに、付随して集落の現状を把握できる空き家などの調査の実施や報告資料の作成などにも取り組んだほか、瀬戸内町と大学との共同の体制についても整えて臨んだ。

その結果、今年度は集落ビジョンに関する協議がワークショップにおいて大きな割合を占め、廃校利活用については企画段階に留まった。これはこれまで集落の運営や経営について協議される場そのものがなかったもしくは限られていたことが要因と考えられるが、今回のワークショップを機に住民による現状の認識や困りごと、自身でできることの共有などを通して、集落に何が必要で何を求めているかといった、これからの生活を考える上で不可欠な事項について協議できたことは住民と行政にとって大きな成果を得たといえる。しかしながら、小中学校跡については、してみたいことと利活用案の提案といった企画段階の協議にとどまり、具体的な改修設計や自主的な運営体制の確立など、事業を推進する実践的な内容の協議についてはようやく始まった段階で今年度の取組みを終えた。今後の集落経営を鑑みると、ここまで段階をおって適切に協議が進められていることから拙速に進めるべき課題ではないことから、およそ順調に推移していると捉えられる。そのため次年度に事業として改修改装工事を実施し、事業を開始できるほどの段階には至っていないが、アイランドキャンパス事業において当初に想定した内容については十分に達成されたと考える。

次年度以降も地域の方々と協力して、小学校跡の利活用について検討を続けるのみならず、地域の振興や生活環境の向上に対して引き続き協力・協働したいと考えている。学生は、今回の学内外の活動から地域文化の理解と具体的な課題を先進的な取組みから実践的に学ぶのみならず、これまでに同町で実施した各種の調査から得た知見の提供と交流を通して、より高い教育的効果と成果が得られたと考えられる。

・参加者（延 16 名）

根本修平（都市経営学部講師）

3 年生：b17u0043 加藤慶亮	b17u0062 後藤友里	b17u0064 酒匂保渚美
b17u0076 須山華帆	b17u0082 瀬良侑希	b17u0124 日野友美子
b17u0154 村上周作		
4 年生：b16u0032 小野和奏	b16u0047 川崎彩乃	b16u0073 佐藤公則
b16u0089 竹村希咲	b16u0091 田中亮光	b16u0121 半田萌夏
b16u0132 舟木花織	b16u0134 前田玲明	

02 事業内容

本年度は、主に以下の日程でそれぞれの内容に取り組んだ。

1) 07月31日(水)

- ・場 所：瀬戸内町役場企画課
- ・参加者：企画課信島補佐、岩元さん、地域おこし協力隊伊藤隊員、根本
- ・内 容：事前打合せ

本年度のアイランド事業で取り組む内容について協議した。各回のワークショップの内容と利活用案の提案の関係などについて整理した。

2) 08月05日(月)～09月04日(水)

- ・場 所：福山市立大学
- ・参加者：根本研究室学生
- ・内 容：集落模型の制作

久慈集落の住宅地図をもとに発泡スチロールを建物外形に合わせて切断し、地図上に配置して集落を鳥瞰的に見ることのできる模型を制作した。



3) 09月07日(土)

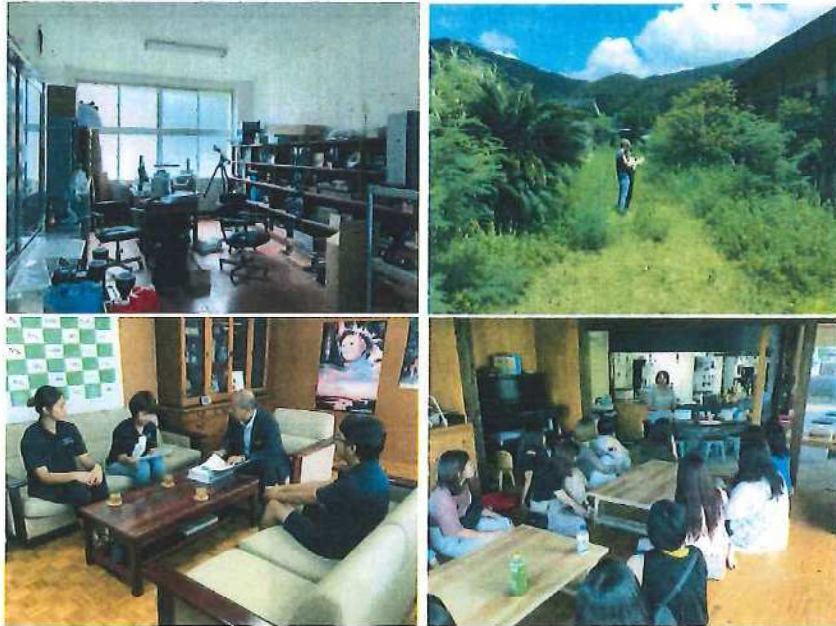
- ・場 所：久慈集落公民館
- ・参加者：集落住民、役場スタッフ、ファシリテーター、根本研究室学生
- ・内 容：第1回住民ワークショップ

会議の進め方、久慈のいいところについて学生も参加するとともに作成した集落模型も持参して協議した。別紙資料参照。



4) 09月09日(月)～11日(水)

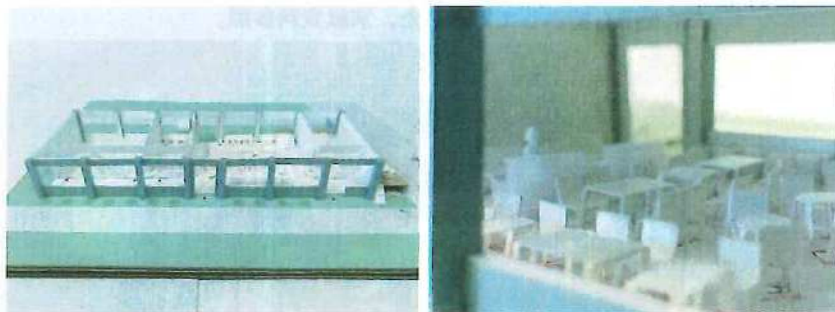
- ・場 所：久慈集落、町役場、阿木名集落、阿鉄集落ほか
- ・参加者：根本研究室学生、地域おこし協力隊小林隊員、企画課祐島さん、根本
- ・内 容：現況調査：破損状態、老朽化の程度などについて調査。別紙資料参照
報 告：これまでの調査とアイランドキャンパス事業で取り組んでいる内容
について瀬戸内町長に報告した。
視 察：阿木名集落などで空きキャパシティ利活用事例などを視察した。



5) 09月17日(火)～11月05日(火)

- ・場 所：福山市立大学
- ・参加者：根本研究室学生
- ・内 容：調査報告作成、利活用案検討

調査で得た現況と役場で入手した資料を照合して調査報告を整理し、その結果をもとに利活用案を検討作成した。別紙資料参照



6) 10月26日(土)

- ・場 所：久慈集落
- ・参加者：集落住民、役場スタッフ、ファシリテーター、山下賢太(ゲスト講師)
- ・内 容：第2回住民ワークショップ
事例を知る、困りごとの分類。別紙資料参照

7) 11月07日(木)

- ・場 所：瀬戸内町役場企画課
- ・参加者：地域おこし協力隊伊藤隊員、根本
- ・内 容：打合せ
ワークショップの進捗確認と運営について助言。利活用案の模型と図面を提出し、ワークショップの進捗を鑑みて利活用案を協議してもらうこととした。

8) 11月09日(土)

- ・場 所：久慈集落
- ・参加者：集落住民、役場スタッフ、ファシリテーター
- ・内 容：第3回住民ワークショップ
なりたい未来を考える、困りごとへの対応を考える。別紙資料参照。

9) 11月27日(水)

- ・場 所：福山市立大学
- ・参加者：瀬戸内町企画課信島補佐、佐多さん、学長、学部長
大学事務局スタッフ、根本
- ・内 容：取り組みについての報告と協議
アイランドキャンパス事業のほか、同町で協力して取り組んでいる事業について瀬戸内町が大学に報告し、継続的に協力して取り組むことを協議した。



9) 11月30日(土)

- ・場 所：久慈集落
- ・参加者：集落住民、役場スタッフ、ファシリテーター
- ・内 容：第4回住民ワークショップ
小商い、観光について企画検討。別紙資料参照。

10) 01月27日(月)

- ・場 所：瀬戸内町役場企画課
- ・参加者：地域おこし協力隊伊藤隊員、根本
- ・内 容：打合せ
ワークショップの進捗確認と運営について助言。集落のこれからを話し合うなかで利活用案について協議していることについて報告を受ける。ハード整備に先立つ集落ビジョンや集落運営体制などの検討を優先し、施設整備などについては引き続き次年度も検討に取り組むこととした。

11) 01月29日(水)

- ・場 所：久慈集落
- ・参加者：集落住民、役場スタッフ、ファシリテーター
- ・内 容：第5回住民ワークショップ
まとめとこれから。別紙資料参照。

03 まとめ

瀬戸内町は、人口減少を背景とした少子高齢化がなおも進行しており、避けられない現状としてすでに認識されている。それにともない都市の経営については、早急の見直しと再編が迫られている状況であり、官民間問わずにそれぞれが積極的に取り組んでいる。

また、最も身近で最小の公共的な集団としての集落では、今後の生活のあり方について共通の認識が求められている時期なのだと思う。行政は町全体の経営を担うが、集落個別の状況を精緻に正しく把握することは現状では困難を極めつつある。そのため、それぞれの集落が自主的にわかりやすい形態で将来のあり方「ビジョン」を描き、表明することもまた求められていると思われる。久慈集落は、いわばこの状態を先取りして取り組んでいる。今後は、今年度検討されたビジョンを集落の中での共有につとめ、具体的なアクションプランとしてブラッシュアップに取り組むとともに、必要な整備や再編を検討する段階に進むことができればと思う。

我々は引き続き集落に伴走し、必要な調査や提案を持って今後の生活のあり方について協力できればと考える。今回のアイランドキャンパス事業が、久慈集落などのように、こういったことに取り組む集落の知見となることを願う。

資料集

- ・瀬戸内町と福山市立大学根本研究室との覚書の調印、奄美新聞、18年12月8日
- ・空きキャパシティ調査報告、奄美新聞、19年9月11日
- ・久慈のこれからを考える会、報告書、地域おこし協力隊伊藤隊員作成、20年2月
- ・空き公共施設調査、久慈小中学校（抜粋）、19年9月
- ・久慈小中学校跡利活用案、19年11月

協力で提供情報や調査空き家

印書覚に関する興振地域

瀬戸内町と福山市立大都市経営学部

瀬戸内町は7日、福山市立大学（広島県）都市経営学部の根本修平講師の研究室と、「離島の地域振興に役立つ学外活動」に関する覚書に調印した。町は今後、同研究室と



福山市立大学と瀬戸内町の地域振興に係る覚書調印式

もに空き家などの現状調査の実施、研究室への情報提供を行う。研究室はこれに応える形で研究の計画書、報告書を町に提出する。

同町が県大島支庁瀬戸内事務所と協働で進める「空き家キャパシティー調査」を実施して、7月には加計呂麻島と古仁屋市街地

で、今月5〜12日の日程では、加計呂麻島を

除く町内全域で調査を行う。同研究室の調査は空き家キャパシティーの戸数調査に留まらず、地域住民への聞き取りから、一軒一軒の「カルテ」を作るといふ。覚書への調印により、同町・同事務所と研究室の一層の連携強化を図り、双方向的な協力体制の構築を目指す。期限は同事業が終了する日まで。

同日、同町役場であった調印式で、鎌田愛人町長は「瀬戸内町は近年著しい人口減少となっているが、潜在的な地域振興に関する覚書を締結した瀬戸内町の鎌田町長（中央）と福山市立大学都市経営学部の根本講師（右と）、締結式に同席した県大島支庁瀬戸内事務所の印南百合子所長（左）

なポテンシャルは高い域の生活環境全体をどうするかを学ぶ」と連携を図り、地域振興が加速することを期待している」。根本講師は「都市計画学部は地

域の生活環境全体をどうするかを学ぶ」と連携を図り、地域振興が加速することを期待している」。根本講師は「都市計画学部は地

非住家9割が活用可状態

福山市立研究室 瀬戸内町に空きキャパシティ調査報告

瀬戸内町と地域振興に関する覚書を交わしている福山市立大学（広島県）の都市経営学部・根本修平講師の研究室は9日、同町役場を訪れ2018年度から継続して実施してきた「空きキャパシティ調査」の結果を鎌田愛人町長に報告した。調査した非住家527事例のうち、すでに利

用できるもの・庭や建物の現状を改善する）合同で空きキャパシティ調査を計3回実施。が486事例と、全体の9割近くに上ることがわかった。

同研究室は18年7月以降、町・県大島支庁がわかった。支え愛事業の二環で、空き家などの戸数・状況を進める「チームせとうち、我が事・丸ごと」調査は請島・与路島も含む町内全集落の671事例を対象に実

態を調べ、活用を検討することが目的。同町での活用を前提とした空き施設の調査は今回が初めてだった。

調査は請島・与路島

調査は約75%にあたる399事例が日常のもしくは、軽度の補修のみで活用可。また、全体の約75%にあたる399事例が日常のもしくは、定期的な管理されている状態にあったという。

9日は同研究室の学生13人・根本講師が瀬戸内町役場を訪れ、代表学生2人が鎌田町長に調査結果の報告書を手渡した。町は「空き家は財産。生かすことができれば集落の収入などにつながる」。データの活用については「我が事・丸ごと」の住まい部会を中心に検討したい」としている。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。

同研究室は今後、町内の空き公共施設・空き店舗の調査を行う予定という。



鎌田町長に空きキャパシティ調査の報告書を手渡した福山市立大根本研究室の学生ら（提供写真）

島で 大舗 美店 チラシ配布して啓発

島で 大舗 美店

チラシ配布して啓発

た。啓発資料のなかで、私たちができること

久慈のこれからを考える会

2019. 9 ~ 2020. 1

肩ひじ張らずに、集落皆で、集落の現状と今後のビジョンを考えて共有するためのワークショップ

取組：集落ビジョンの作成

目的：これからの久慈について考える=ビジョン会議

視点：久慈集落の生活がよりよく楽しくなるため

体制：集落住民、役場スタッフ+ファシリテーター（中立に進行する係）、

アドバイザー（根本先生、学生さんなど）

形式：ワークショップ形式（一部の人で決めることではないため）

内容：

- ①ワークショップを良くするためのアイデア
- ②地区のこれからを考える
- ③未来に向けて取り組みたい課題、残したい価値
- ④具体的な実現に向けた検討
- ⑤住民自らできること・できないこと
課題に思うこと（協力があればできること）

ファシリテーターは山本美帆さん。

ワークショップスケジュールは、月1回、全5回。

★福山市立大学根本研究室

・・・古高寮デザイン、空き家調査、集落アンケートなど実施されているグループ。

★山本美帆さん

・・・コミュニティ施設 hub a nice d! ・オーナー。阿木名まちづくり委員会・コーディネーター。



第1回

日程) 2019年09月07日 19:00~21:00

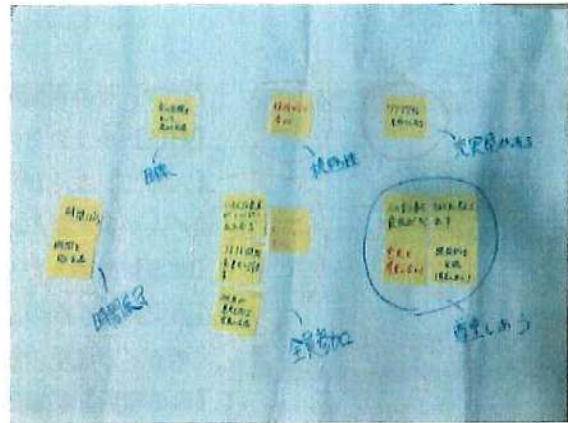
参加者) 21名

テーマ) 資源

① 「会議の進め方を考える(良い会議とは)」

→グループワークに慣れる。話しやすい雰囲気づくり。意見を出しやすくする。

約束ごと設定 やわらか発言、反応3割増し、楽しむ気持ちを忘れずに!



② 「久慈のいいところって?」

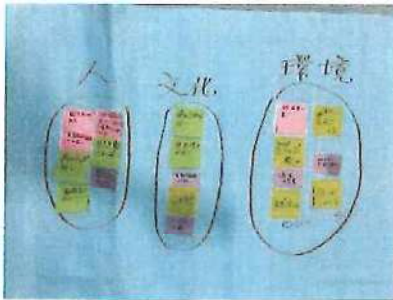
→資源の発掘。多くの意見が出て久慈の魅力を確認。(次頁)

久慈のいいところマップを作成

★久慈のいいところマップ



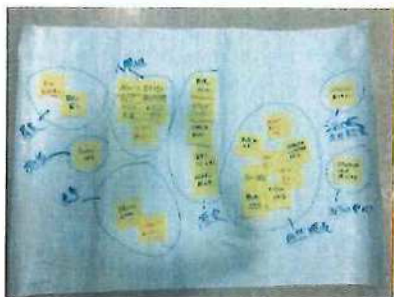
「久慈のいいところって？」 <資源>



【人】 団結力がある／集落民の協力心が強い／結の心が強い／協調性がある
／人間関係で先輩後輩の境界がはっきりしている／先人を尊ぶ心が強い／う
どん・天ぶらがおいしい

【文化】 誇れる事が多い／歴史の重みがある／白糖工場跡がある／永井龍
雲・ルリカケスの歌

【環境】 自然環境が良い／自然が豊か／（資源）農地がある／久慈湾の景色
／波が穏やか／テラダがたくさんとれる／イカがつれる／養殖 タイ、マグ
ロ



【産業】 魚の養殖場がある／養殖が盛ん

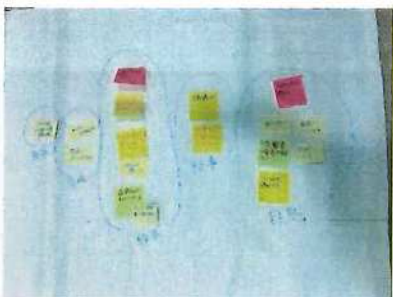
【施設】 ルリカケスがある

【人間性】 よそからの人を大切にする／団結する協力する気持ち／みんな友
達／人がよすぎる／人が優しい

【食事】 久慈うどんが美味しい／ご飯がおいしい

【歴史】 豊年祭の振り出し／れきしがいっぱい／白糖工場跡地／海軍の施設
がある／旧海軍の貯水庫

【自然環境】 和喜公園が良い／堤防が新しくてきれい／設備が充実した小中
学校がある／海が近い／湾がきれい／静かなる久慈湾／テラダがとれる／自
然が豊か



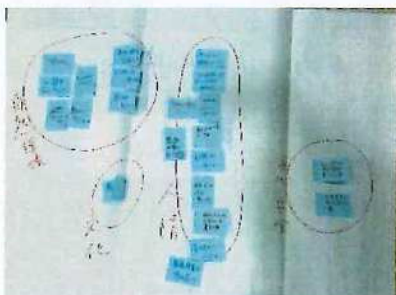
【施設】 西方で唯一小規模介護施設がある

【学校】 ナイター設備がある／学校にプールがある

【住民】 困った時は助け合う／困っている事があったら助けてくれる／久慈
の人はやさしい／みんな優しい／集落民がおっとりしている／おいしい料理
が食べられる

【行事】 行事が残っている／行事などに協力的である

【自然】 湾内で魚が釣れる／海がきれい／久慈湾の景色がすばらしい／川に
エビや鰻がいる／遺跡がたくさんある／ネコがいる



【自然環境】 公園がある／公園が広くキレイ／山がきれい／鳥がいない
／荒地が少ない／海がきれいな所／目の前が海／貝がとれる

【文化】 歴史がある

【人情】 自分たちに興味をもってくれる／はじめましてで同じ食卓を囲める
／みんなにやさしい／皆んなが協力し合う／家族のように暮らしている事
／集落全員が力を合わせる所／口調がやさしい／めんどうみが良い所／自分
にないものを持ちよって暮らせる事／美味しいうどん／集落作業が多くない

【安心・安全】 老人施設ができて安心してすごせる事／かぎをかけずにくら
せる事

第2回

日程) 2019年10月26日 19:00~21:00

参加者) 15名

テーマ) 課題

① 事例を知る：山下賢太さん講話「困りごとこそ可能性」

山下賢太さん 東シナ海の小さな島ブランド株式会社
甌島 人口1,117名(山下さんが住んでいる集落は150名)
高齢化率50% 総合病院ゼロ 高校ゼロ
ストーリーが詰まった島米 米づくり、レモングラス茶
地域の困りごとである空き家→豆腐屋に。人が集う場。
閉港した旧フェリー乗り場施設→パン屋、テラスに。
旅館の立て直し→FUJIYA HOSTEL 普段の暮らしを見せる・
魅せる
漁師さんに焦点を当てたい→KOSHIKI FISHERMANS Fest
漁師さんから直接お客さんへ。価値のあるものがわかるお客
さんを増やす。



大事にしていること・・・1、外部とのゆるい関係性
2、正しさよりも楽しさ 3、当事者意識
4、固定概念(ふつう)を疑う 5、あるものを生かす
6、選ばれる理由を育てる

誰かのために自分が何ができるんだろう。自分たちで
稼ぎ、自分たちで使う 頼りすぎない島の未来へ。

(山本さんのグラフィックレコードより)

② 「困りごと・分類」

→対応できる規模で分類(個人、チーム、集落、町、県、国・・・大きいことほど時間がかかる)(次頁)

困りごとリストを作成

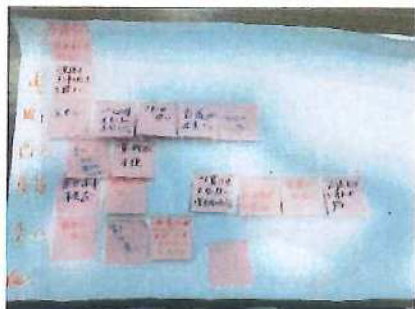
★困りごと→分類

【行政などの協力が要ること】
空港まで遠い
病院まで遠い
古仁屋まで遠い、道がクネクネで危ない(トンネル化希望)
役場まで遠い
バスの本数が少ない
学校がない
スマホの電波が入りにくいエリアがある
もっといろんな情報が欲しい
放し飼いのネコ、ノネコ問題(ファン、事故)
農道が狭い
カラスが多い
遊園地がない

【未分類・右記の取り組みで解決できるかも…】
一人暮らしの人が多く(緊急時の対応)
働く所が少ない
集落に活気がない
もっと楽しいことがほしい、娯楽が少ない
個性が強い
結の心が薄れてきている
会議以外に集まりが少ない
自販機が近くにない

【集落でできそうなこと】
小商い
野菜の販売所がない
商店がない
飲食店、カレー屋さんやうどん屋さんがあったらいい
小さくても良いので集まって話せるカフェがほしい
観光
遺跡がいまいちアピールできていなくてもったいない
宿がない
情報
放送が聞こえにくい、行き届かないことがある
行事の連絡がわかりにくい
掲示板がない→ご近所同士で聞く・教えることで解決する
住まい
賃貸がない
戸数・人口減に歯止めがかからない
若者が少ない、行事の存続、あと5・6年で65歳以上が90%
子供が少ない

「困りごと・分類」 <課題>



【国】 5、6年で65歳以上が90%

【県】 道路をトンネル化してほしい

【町】 医療/バスの便をもっと増やして/ノネコが多い/農道が狭い/カラスが多い

【西方】 車がないと買い物に行けない/買い物が不便

【集落】 車がないと不便だ/飲食店がない/一人暮らしの人が多(緊急時の対応)/20、30代がない/若者が少ない/会議以外に集まりが少ない

【チーム】 商店がない/賃貸がない/遺跡がいまいちアピールできてなくてもったいない

【個人】



【国】 空港まで遠い/スマホの電波が入りにくいエリアがある

【県】 病院まで遠い/もっと色々な情報が欲しい

【町】 役場まで遠い/バスの出る時間帯が少ない/古仁屋までの道がクネクネで危ない

【西方】 学校がない

【集落】 放送が聞こえにくい/集落にカキがない/もっと楽しいことがほしい/商店がない/カレー屋さんかうどん屋さんもあったらいい/小さくてもいいので集まって話せるカフェが欲しい/娯楽が少ない/宿がない

【チーム】

【個人】 若い人がいない/個性が強い



【国】 戸数・人口減に歯止めがかからない/子供がいない

【県】 若い力不足(行事存続が難しい)/学校がない/病院がない/遊園地がない

【町】 バスの本数が少ない/中心地や空港まで遠い

【西方】 働く所が少ない

【集落】 最近ねこが多い/商店がない/食べる所がない/宿泊施設がない

【チーム】 結の心が薄れてきている

【個人】 野菜の販売所がない/掲示板がない

第3回

日程) 2019年11月09日 18:00~20:00

参加者) 10名

テーマ) 未来と取組



①なりたい未来を考える(1年後、3年後、10年後)<未来>

森早実 63才

	1年	3年	10年
自分	・秋仕事に11月 ・野菜作りが楽し ・新しい釣道具探し	・年金生活に入る ・釣具三昧 出荷	・2人の子供を養 ・孫の結婚式に出
集落	・各行軍に継続する ・学校を活用し農業 が盛ん	・トナリが通る ・物販販売車が 来る	・豊年米を売れる ・古く屋敷の ・多量に20分 ・分けてあげる

中-まけ 33才

	1年後(34才)	3年後(36才)	10年後(43才)
自分	・ジーンズで脱出 ・自分で作る作物を 販売する ・後者が出来る	・職能増強 ・収入増	・年収1,000万円
集落			・学校が復活

武田 70才

	1年後 71才	3年後 73才	10年後 80才
自分	・身体の状態 は、数年前 に比べて	・少しだけ 歩行出来 る	・痛たつて は、これ以上 歩けない
集落	・変化が少 ない	・11月31日が ない方向に向 き	・集落民同 志協会で村 に頑張る

ハツヒロさん 75才

	1年後 76才	3年後 78才	10年後 85才
自分	・これまでの 経験の 結晶	・いんせう生活 を始める ・活性化への 役割	・健康管理を し ・孫達の教育 を支援している
集落	・入居人口 が増える (産業)	・協働性 ・協力心 ・積極性 ・再支給	・集落が維持 ・発展している

ひとし 35才

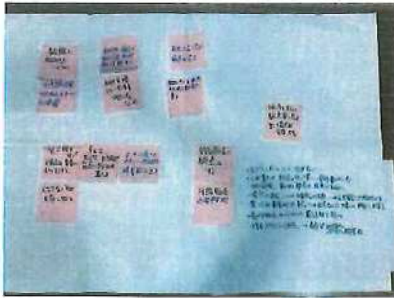
	13年後 48才	35年後 70才	10年後 45才
自分	・久慈西で 住む ・仕事が 楽	・夫婦が 数人で 事業を 行う	・3人の 若者と 一緒に 働く
集落	・行事に 参加 ・観光 資源を 活用	・人が 来る ・目的 が ある	・人が 働く ・住み やすい ・思 い

かほえ 34才

	10年後 35才	30年後 37才	10年後 44才
自分	・協力隊 ・久慈 ・農業 ・観光	・協力隊 ・久慈 ・観光 ・農業	・2人の 子供が 生まれる ・生活 が 安定
集落	・収入 ・協力 ・観光 ・農業	・収入 ・協力 ・観光 ・農業	・収入 ・協力 ・観光 ・農業

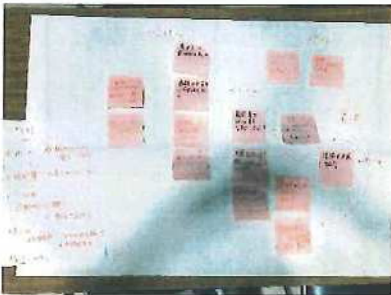
②困りごとにどう対応するか考えてみる (小商い、観光、住まい) <取組>

困りごとにどう対応するか考えてみる（小商い、観光、住まい）＜取組＞



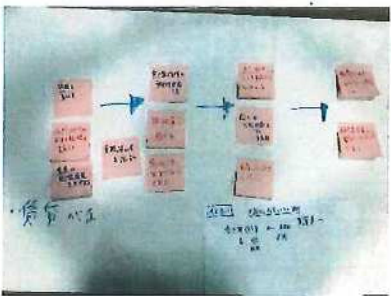
◆小商い

- ・公民館で始めてもいい／公民館活用のためのいろいろな準備
- ・それぞれ個人で何でも作って物々交換する／物々交換マーケットみたいな仕組み
- ・曜日を決めて朝市をする／自分の作った野菜を公園の朝市で売る
- ・儲けを考えると観光客に売のお土産が必要かも
- ・食べ物を中心に、日用品は集落の人に向けて／腐らないものを多く扱う
- ・うどん、天ぷら、かき揚げ…"売り"になるものを考える
- ・ラーメン屋さんやカフェのための許可を取る
- ・移動販売の拠点にする／注文販売 西方村内



◆観 光

- 【看板】 集落入口、各箇所とそこへの道のりに案内板を立てる
- 【ガイド】 ガイドできるように知識をつける／グループを作って代表者が受付
- 【宣伝】 新聞等でアピールする／伊藤さんにFMでアピールしてもらおう／観光客の来訪を工夫して増やす
- 【管理】 遺跡に対する管理、例えば定期的な草刈りなどの体制を確立する
- 【他にも】 待網も久慈の名所／振出しなど／遺跡を見に来た人がお茶したり宿泊できる場所作り／遺跡見学と飲食店で相乗効果を生む



◆住まい

- 情報を集める／空き家改修に向けて情報を共有する／集落の空き家情報を共有する／利用の可否を話し合う
- ↓
- 空き家改修の補助を利用する／補助金を増やす／国や県に良い制度があれば活用する
- ↓
- 現在改修されている事例などを伝える／住人を行政の協力を得て募集する／集落内の空き家を減らす
- ↓
- 集落とともに空き家改修をする／移住希望者と集落をマッチングさせる

地域提案型（空き家改修版）：補助8割。お試し住宅としての活用も。

第4回

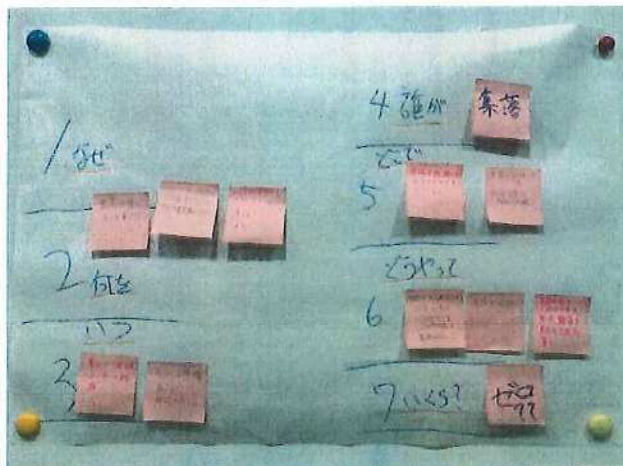
日程) 2019年11月30日 18:00~20:00

参加者) 15名

テーマ) 検討

各チームで、「小商い」「観光」について企画し5W2Hを考える。下記のアイデアが生まれ、それぞれ発表。

- ① 小商い→販売所、通販、フリーマーケット、集落倉庫
- ② 観光→案内マップ作り、自然を味わえるプラン、
エース級の見どころをふやす、豊年祭の魅力発信力を高める
(次頁参照)



- ・住まいについて、空き家改修の補助のことなど山本さんから情報提供
- ・まとめ 各自感想と運営に伝えたいことを書き、チームで共有。

【観光】	◆久慈の自然を味わおうプロジェクト	◆久慈の自然を味わおうプロジェクト 農地の有効活用 久慈を知ってもらおう 久慈の自然を味わってもらおう ルリカケスの迷 白鷺工場公園・カフェ	◆久慈年祭ツアー 農年祭の振出しが独自の伝統伝承文化 農年祭見学者が湧いている パンフレットの作成 振出しの歴史・再確認 見どころをつくる・検証 毎年1回 実行委員会の組織立て
1なにを	見どころ案内マップ		
2なにを	見どころ案内マップ		
3いつ	目標は来年末くらいまで		
4だれが	デザインはかなえちゃん主導		
5どこで	和室公園に設置		
6どうやって	案内マップがある集落に置く	学校の空き地に花を植えて見でもらう(コースセス、ひまわり) 多くの人に知ってもらいたい 観光史のアービール	内容の一つずつ パンフレット作成 農年祭の見どころ・演出 配慮に残るものを作りたい
7いくらで	後援に聞く		

【小高い】	◆フリーマーケット	◆果実倉庫・果樹商店プロジェクト 人のために(含資的権性) 生ものを買える場所がない バスで買いたい物大盛 商店が役割を果たさない状況	◆ルリカケスの部 販売所プロジェクト 果実活性化のため 生活しやすさ 休憩所いこいの場 売る割としても買う割としても欲しい 久慈への集客、久慈を知ってもらう この先に学校を利用するプロジェクトへの展開をしていく
1なにを	フリーマーケット		
2なにを	フリーマーケット		
3いつ	年々二回程度		
4だれが	生協のグループ 発送とが事務作業する人 立報する人		
5どこで	発送センターになる場所→公民館など		
6どうやって	生協のグループづくり →声掛け、グループづくり、野菜作りのルール →発送作業のお金をどうするか		
7いくらで	場所代→発送作業などの人件費		